

日本最古の草木塔を訪ねる

藤島山野草愛好会（工藤正喜会長）が5月26日、米沢地区日本最古の草木塔^{そうもくとう}を視察し、置賜草木塔の会の荒沢芳治氏の座学研修を実施しました。

道の駅田沢「なごみの郷」HPによると、草木塔の総数は全国で約170基、関連の類似塔を含めると190基以上ともいわれ、江戸期の草木塔は34基で、そのうち32基が置賜地方にあり、米沢市域には17基です。

その草木塔の中で最も古いのが、田沢地区入田沢塩地平に建ち、

安永9年（1780年）、上杉鷹山公の時代に建てられたものです。

草木塔が建立された理由は諸説ありますが、草や木などの自然の恵みへの感謝と、供養する心があるとされています。



藤沢周平を読む33

鈴木重雄（八色木）

男の声がした。

「手折って進ぜよう」
その声あまり突然だった。野江は思わず軽い恐怖の声を立てた。

男はそんな野江の様子にかまわずに、無雑作に頭上の枝をつかんだ。

「このあたりで、よろしいか」

武士は振り向いてそう言い、野江がうなずくのを見てからびしりと枝を折った。

渡された花を胸に抱いたとき、野江はようやく驚きからさめて礼を言った。そしてかわりに顔に血がのぼるのを感じた。

「多分お忘れだろうが、手塚でござる。手塚弥一郎」

あつと野江は、眼をみはった。

その侍は手塚弥一郎で、かつて野江の再婚話の際に縁談があったが、野江の方から断っていた。会ったことはないが、剣の名手だと言いつつ、何となく粗暴な男のような気がしたからである。

「このお方が・・・手塚弥一郎には、粗暴な感じなど、まったくなかった。眼は男にしてはやさしすぎるほど、おだやかな光をたたえている。

映画では、田中麗奈と東山紀之の出合いの場面である。



2008年公開の映画「山桜」のロケ地となった行沢の桜（あさひむら観光協会HPから）

■山桜（続き）
破局が見えていた。だが磯村の家を出たら、叔母のようになるのだろうか、と野江は思う。叔母は行かず後家のまま死んだ女である。

物思いにふけりながら、野江はゆっくり歩いて行った。人影もなく静かな道だった。雑木の奥から、小鳥の声が洩れて来る。

「おや。やっぱり桜だった、と野江は眼をみはった。これが、モデルになった朝日・行沢の山桜である。

見上げているうちに、野江はひと枝欲しくなった。折り取って帰り、壺に活けたらさぞ美しくろう。

そう思いながら、頭上の枝に手をのぼした。いざ手をさしのべると意外に高い位置にあった。わずかに手がとどかない。野江はよろめいて、もう少しで下駄の緒を切りそうになった。そのとき、不意に

パワハラ報道に、議会は情けなく恥ずかしい

藤島地域の一市民から、「私の思いを民報に掲載して欲しい」と依頼があり、紹介します。

☆☆☆

7月5日の山新に大きな見出しで掲載された、「鶴岡市長から直接29人／百条委、パワハラ疑惑アンケート」の記事を見て、鶴岡市議会に対して、一市民として情けなく、恥ずかしい限りである。

土台、100万円問題しかり、パワハラ云々で、百条委員会設置が正しい判断だったのか、疑問と不信である。ただ政争がらみで、最大会派が数の力で決定。結局詰め余し状態で、時間と経費の無駄遣いと思えない。報道のたびに残念でならない。

重ねて政務活動費問題では、それぞれ公金に関わる大きな問題でありながら、“謝罪の弁で十分”との議長判断で、結果は役職辞任で終わり、役職のない議員はなにもなしである。

またたく身内「甘く、その会派の考え(数)

で議会運営が左右されるとすれば、市民にとって大きな不安であり、改善を望みたいものです。

会派は否定しないが、もつと一人ひとりの意見や考えで議会運営が出来るようにして欲しい。ただ単に烏合の衆としか見えず残念である。強く望みます。

市長のパワハラ問題を取り上げること自体、恥ずかしい限りである。皆川市長は、はつきりと「パワハラ」の認識はない。市民と市政のため「とキッパリである。市民目線からしても、またたくその通りである。

パワハラを受けたと

ひと

日下部勇一

(庄内町榎島)

波瀾(乱)万丈の人生

青山 崇

■開票中身隠す、反転トップ当選で喜び爆発

1979年(昭和51)3期目の立候補である。定数26議席を28人で争う厳しい選挙となった。

である。

今回は9回目の統一地方選挙の余目町議選挙だった。過去最多得票は(故)斎藤道雄氏640票だったが、勇一議員は642票で2票も上回った。

たくさんの人々が公民館に集まり、盛大な祝勝会になり、花束をいただき、胴上げをして貰った。全11回の選挙戦で忘れられない光景であった。

選挙戦を振り返ると、(1) 1975年12月議会、「スクールバスでの幼児送迎について」



■年金裁判、高裁へ

仙台行きの高速バス。物産館発9時のそれに乗車。前回の利用からは10年以上になるか。

▲7月5日は、仙台高裁で年金裁判の第1回控訴審が行われるのに、鶴岡田川を代表して傍聴に行くんだ。時節柄合席はなく、それで満車の模様。寒河江の休憩時、酒田支部長の今野さんが顔を見せてくれた。これで、仙台に着いても一人ではないと、一安心という処。

▲高裁は、青葉通りで下車し1km位と聞いていたんだが、2人は終点で下車。今野さんが持っていた略図と道端の案内図で何回も確認。それは真剣だから暑さは気にならなかったが30分以上掛ったのではないかと。

▲どこの高裁もこーなのか、持ち物検査をするんだっけ。いわゆる

をアンケートに基づいて質問した。

児童館保護者会の会長を務めていたので、役員と一緒に町長交渉し、来春3台を購入し実施すると約束。保護者や関係者から大変喜ばれた。

(2) 跡集落8戸の高圧線鉄塔の土地占用料の未払い分、過去10数年分を支払わせた。

なお、年間で鉄塔1本350円、支柱270円で、1本計620円、15年とすると9万3000円となる。

飛行機に乗るときのアレです。鞆とポケットの物を皿に乗せ、自身は杵を潜って行く。ピクッと異常音。ハイ手を上げて・とタワシみたいな物で一回り。時計とバックルに反応だ。

▲高裁の食堂で昼食し、内陸勢を待つも1時を過ぎても見えない。宮城県本部が集会をするとの情報。そこに参加で、検査で又ピクだ。

▲裁判官は3人。裁判長は今日で結審のつもりに、外塚弁護士が食い下がって次回も弁論がある事に。新庄支部長の小野さんの陳述が許され、終わったのが2時半近くだった。

▲報告集会で弁護士から、傍聴者の数でこっちの意見の強さが計られるから、次も大勢で。と。宮城県本部が組織してくれ、俺達を入れて40人位か。主張と立証を尽くし、少しでも前進を・と、裁判長も同じ認識に。(石川)

